

I. 令和元年度の運営総括及び来期の課題

「白根南児童館」は今年度で開館5年目を迎えることができました。来館者数は61,062名となり、小学生、中学生で来館者数の増加がみられた。また、地域の方々のご協力をいただき、児童館が地域の生活に根付いてきている。年度末の3月には、新型コロナウイルスの影響で休館となった。その後の開館に向けての来館者への対応、感染防止対策など、検討や準備を行った。消毒やマスクの着用、検温などを徹底している。今後も安心安全を重視した環境を整えていく。

1. 乳幼児・保護者向け事業

(1) 総括

毎月、定例行事である『すくすくひろば』、『絵本タイム』、『作って遊ぼう』を企画・運営している。親子のふれあい遊びや身体を動かすこと、絵本読み聞かせ、制作活動など、子どもの成長を確認できる場となっている。

保育園帰りの幼児の来館や、支援センターでの保護者同士による情報交換からの来館、『BP講座』に参加した母親の来館などがあつた。新潟市南区だけでなく、広い地域からの来館がみられる。土曜日・日曜日・祝日も開館しているため、日頃支援センターに通う近隣の加茂市、三条市、田上町の方々や、父親や祖父母の来館も多い。また、職員による育児相談や母親同士の交流を求めている保護者がいる。職員は子どもを遊ばせながら保護者と会話をし、日頃の育児の悩みや家庭の出来事など傾聴に努めている。また、友達を求める母親への仲立ち役としての役割も果たしている。

保護者向けの行事として、『ママタイム』や『子育てオーエンジャー☆みなみ』との連携による『わくわくひろば』を開催した。今年度も、来館する幼児や小学生の保護者、地域の方が得意な内容を実施し、講師として招いた。ハンドトリートメントやヘッドリフレ、かかとケア、足つぼマッサージ、スイーツデコ、ハーブのブーケ・リースづくりなど、充実した内容となった。母親たちや地域の方々リラックスできる時間を楽しんでもらうことに加え、それぞれの自己実現の機会にもなった。また、財務省の職員が講師となり、無料の「子育て世代のマネー講座」を行った。母親たちが求める情報を提供することができ、大変好評であった。

また、今年度は新しい試みとして、「0円バザー」を開催した。あきまつりにて行い、その後も「0円バザーウィーク」として実施した。また、白南中の移動児童館の際にも企画した。近隣に住んでいる地域の方々にご協力をいただき、おもちゃや洋服などの寄

付をしていただいた。日頃使っていたものをご提供いただき、利用された方々にもとても好評であった。その際、利用された方からは、自らも服やおもちゃ等を提供したいという声が多かった。今後も地域の需要や希望に沿った企画を行い、地域の方々の繋がり
の場を作る上で、継続していきたい。

移動児童館に出向いた地域の保育園からは、バスを利用した保育園児の来館が今年度もあり、相互の交流を図ることができている。

また BP 講座の開催で、児童館の存在を知ってもらうことができ、その後の来館にも繋がっている。

(2) 課題

今年度は、地域や保護者の需要と必要性のある企画を実施した。今後も地域の声を重視した企画を継続し、必要と思われる要望の実現や発見ができる、繋がり
の場となるように働きかけていきたい。また、保育園入園や子どもの発達、家庭環境などについての保護者の悩みについて情報収集し、保護者と子どもの拠り所となる児童館を目指していく。今後も、他所に出向いた
触れ合いや、児童館の情報発信として、個人情報留意した SNS の活用等を積極的に行っていく。

昨年度、今年度は BP 講座を児童館で行い、親しみの持てる場となり利用に繋がった。来年度も実施予定であり、児童館の認知度が高まることで、利用に繋げていく。

2. 小学生事業

(1) 総括

幼児の頃から保護者と来館している子どもが、小学生となって来館が増加し、また、低学年から中学年になった小学生の来館が増加した。平日、土日の小学生の来館は、定期的
に来館してくれる常連の子どもが多い。児童館に来れば誰かいるということや、子ども同士で約束をして来館することがある。例年、賑やかさを増す長期休みでは、放課後児童クラブ『茨っ子クラブ』の小学生が午前午後と来館し、また、帰省中の小学生の来館もみられた。移動児童館での放課後児童クラブの利用も需要があり、定期的に行っている。

クラブ活動は、今年度も継続して活発に行い、小学生の定着した来館に繋がった。また、保護者からの期待も大きい。『みなみっ子クラブ』では、行事の企画や実施など、自主的な活動を重視した。子ども会議やボランティアとしての活動が自然な形で実施できたことは大きな成果である。茨曾根小学校だけでなく、庄瀬小学校、新飯田小学校

などの子どもが参加してくれた。初年度から活動している『音楽クラブ』では、今年度も『茨っ子クラブ』や地域の小学生がメンバーとなり、茨曾根の『なつまつり』や『敬老会』に参加し、音楽発表を行った。地域の方々に日頃の練習の成果を披露できた。保護者の方々の協力が有難い。

また、クリスマススポーツ大会と題して、地域のボランティアの方を講師に招き、サッカーやバスケットボールを遊戯室にて行った。児童館からのクリスマスプレゼントとして新たにバスケットボールのゴールを設置した。そしてバスケットボール検定を作成したことにより、それらを目的に来館する子どもが多かった。定番となっている一輪車検定とともに不定期に行っている。日々の練習の成果を試す機会、目標に向かって努力する姿勢を持つきっかけとなっている。

また、8月には「音楽に触れちゃいな祭」という音楽祭を初開催し、幼児、小学生、中学生、高校生、保護者等、幅広い年代が楽しめるよう、チケット制で飲み物のプレゼントを実施した。また、これまで児童館でのコンサートの出演をしてくださった地域の方々やライブハウスの高校生等の出演が実現した。広報では、小学校、中学校、高校でのPR活動を重点的に行った。たくさんの地域の方々のご協力で、多くの方に楽しんでいただけた。

あきまつりでは、子どもたちが意欲的にボランティアとしての役割を果たした。日頃から子ども達が意見を出し合い、話し合っただけで協力していた。ブースを担当したり、準備を手伝ったりして、自主的で意欲的な参加が多くあった。児童館アイドルの活動をしている小学生は、まつりのオープニングにて発表を行った。やりたいことを実現するために、ダンスの練習を一生懸命行っていた。ボランティアとして保護者の方が来てくださったり、本番も協力をいただいたりして有難かった。はるまつりは、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、中止とさせていただいた。

毎年実施している長期休みの企画では、地域の方を講師に招き、夏休み工作として陶芸の器づくりを行った。また、白根公民館と連携し、茨曾根小学校文化祭にて作品展示をさせていただいた。そして白根南児童館の初の試みとして春の文化祭で展示を行った。子どもは表現する場ができ、また保護者や地域からも関心を持っていただけた。

幼児向け行事のお正月お楽しみ会では、みなみっ子クラブの小学生が、司会やブースを担当した。とても頼もしく、役割を果たしていた。また、小学生向けで実施した豆まきでも、司会やゲームを担当し、盛り上げていた。定番となっている宝探しゲームも楽しんでいただけた。

小学生は2年生が職場見学に3回来館した。担任の先生と事前打ち合わせを行い、質問タイムやレクリエーションを実施し、演奏やダンスの披露などがあつた。その後、干し柿をいただいたり、給食を一緒に食べることをさせていただいたりした。今後も交流を進めていきたい。

避難訓練では、茨っ子クラブの小学生や、他に来館している子ども、親子等がスムーズに動くことができていた。また、予告なく実施したが、日頃からの訓練で行動できる子ども達が素晴らしかった。避難訓練では、不審者などの対応についても職員間で確認、共有し、意識を高めた。火災だけでなく、地震や津波などにも対応できるよう、様々な訓練を継続して行っていきたい。

また今年度は、中学校との新しい移動児童館の試みとして、食生活改善推進員の方との共催で、小学生及び中学生向けのバレンタインクッキングを白南中学校調理室にて実施した。子ども達は調理の機会を楽しみ、保護者の方も日頃できないことを経験させることに満足されていた。とても好評であり、感染症の影響がない状態下となれば、実施したい。

今後も地域の居場所や、地域の活躍の場を作り、安全安心を確保しながら、継続していく。

(2) 課題

小学生は、例年、低学年の来館が多く、高学年が少なかった。日頃来館している低学年、中学年の小学生が、高学年や中高生になっても継続して来館できるような環境を作っていこうと考え、今年度は幅広い年代の子どもが楽しめるように環境整備や企画をしてきた。その結果、低学年の頃から継続して来館する小学生は、高学年となっても来館している。子どもの意見を取り入れた、遊ぶ道具の購入や企画内容などの工夫を行った。今後も、身体を動かすことはもちろん、子どもの主体性を育む内容や、じっくり考える内容、ゲーム性のある高学年向けの行事の企画を実施していく。また、勉強・宿題をする場、共に考え学ぶ場の提供をすることも考えている。高学年も継続して楽しめ、居心地のよい必要性のある居場所にしていきたい。現在、行事での小学生ボランティアの意欲的な参加があり、さらに保護者の方の参加もある。今後は、より地域の方々が必要とする内容や環境を提供できるよう、さらなる連携を強めていき、意見を取り入れながら一緒に作り上げ、児童館を充実させていく。

来年度は、コミュニティスクールの地域の一員として、白根南児童館が地域貢献できるよう、努めていく。

3. 中高生事業

(1) 総括

今年度の目標を、中学校の行事に参加し連携することとしていた。学校側、校長先生と話し合い、校内放送等の広報活動を積極的に行った。それにより、子どもたちの自主的な活動に児童館が関わることができ、利用促進と認知度が上がった。具体的には、中学校との新しい移動児童館の試みとして、二つの企画を実施した。

一つは、白南中学校の合唱祭・文化祭にて、遊びやバザーのブース出展を行った。場所は柔剣道場で開催し、事前の打ち合わせや準備の時間を十分に取り、連携を図ることができた。地域の乳幼児親子や小学生、中学生が参加し、楽しんでくれた。

もう一つは、食推の方との共催で、小学生及び中学生向けのバレンタインクッキングを企画した。場所は白南中学校調理室にて実施したが、試験期間であったため、中学生の参加はなかった。クリスマスや長期休みなど、時期を改め、感染症の影響がない状態下となれば、今後も継続していきたい。また、調理だけでなく、工作やダンスなどの内容も考えられる。これからも、先生方や生徒と意見交換し交流を深めていきたい。

中学校側としても地域との連携は重要であるとする。生徒の自主的な活動やボランティア活動を行う機会を増やし、利用してもらうことにも繋がるように働きかけていきたい。

移動児童館等をきっかけに、児童館職員と関わり、児童館を居場所として活用してほしい。

例年受け入れている中学校の職場体験においては、夏休みに児童館の様子や職員の仕事内容への理解や学びを促すことができた。その中で、可能な限り、自主性を重視した活動を行った。毎年行っている行事であるイラストコンテストでは、『放課後等デイサービス ぷあぷ』の中高生が参加し、作品の投票と展示を見るために来館した。また日常の様子においては、中学生の時から来館していた高校生女子 2 名が、専門学校の進学やアルバイト、旅行の話をしたり、作業をしたりしながら、職員との交流を楽しんでいた。また、休みの日には、中学生が小学生の迎えをしたり、幼児や小学生と一緒に遊んだりしていた。友人と卓球やミニバドミントン、バレーなどで遊ぶ姿もみられた。

(2) 課題

幼児・小学生の頃から来館している子どもが、中高生になってからも来館することに繋がるよう、企画・実施・環境を整備していきたい。来年度は地域のコミュニティスク

ールの一員として、卓球大会や調理などの行事企画への参加やボランティア活動の提案をしていくことも考えられる。中学生との繋がりに加えて、高校生、大学生、専門学校生は、実習やボランティア、アルバイトなどでの関わりが既にあるため、今後も継続し、より発展的な活動をしていきたい。

4. 移動児童館

(1) 総括

白根南児童館の特徴である移動児童館では、今までの内容に加え、新たにできた二つの放課後児童クラブへの訪問と、白南中学校での企画を新たに実施した。

今年度は、新飯田地域と庄瀬地域に、地域生活センターにて放課後児童クラブが設置された。移動児童館の要請に応え、可能な限り連携、協力をしてきた。『しょうぜっ子クラブ』、『新飯田げんきっず』にはそれぞれ年3回ずつ実施した。事前の打ち合わせを行い、レクリエーションや絵本の読み聞かせなどを行った。その後、新飯田げんきっずの小学生にも、児童館でのハロウィンに参加してもらうことができた。

定例の移動児童館は、そよ風保育園、月潟保育園、新飯田保育園での読み聞かせやカラダで遊ぼう、講師を招いてのリトミックを行った。子育て支援センターぷあぷでは読み聞かせとハンドマッサージなど、継続した活動ができた。また、茨曾根小学校にて文化祭での展示、庄瀬小学校にてバス待ちの放課後の時間での月2回ずつの実施、新飯田小学校での市小研の日の放課後に年3回の実施を継続して行った。小学校の文化祭では今年度も白根地区公民館の協力があり、作品展示に参加することができた。小学生を中心としたクラブ活動においては、夏まつりや敬老会などの行事に参加することで地域との連携が図れている。また、『放課後等デイサービス ぷあぷ』と白根第二、臼井、根岸などの『ひまわりクラブ』でも長期休みに実施した。月潟と臼井ひまわりクラブでは、指定管理者が今年度から変わり、移動児童館についての説明や打合せなどを新たに行う必要があった。子どもや保護者、地域からの要請、ニーズには、今後も可能な限り応えるようにしていきたい。保育園の移動児童館で顔見知りになった子どもが来館してくれたり、支援センターで出会う保護者が児童館を利用していたり、交流のきっかけとなっている。移動児童館の定着が児童館の認知、来館に繋がっていることを実感する。

今年度の白南中学校の移動児童館は、自主性を大事にしたいという思いから学校側との話し合いを行った。合唱祭・文化祭における、柔剣道場での遊びのブースと0円バ

ザー開催や、小中学生向けバレンタインクッキングの企画などを実施した。学校の先生方や、食生活改善推進員の方、学校コーディネーター等の協力が得られたことで、児童館への理解が深まり、受け入れていただけている事が有難い。今後も継続し、地域の方が集える場作りを行い、子どもたちが地域で発表や表現をする場としても活用してもらいたい。

(3) 課題

幼児向けに関しては、ボランティアや講師の方々の協力に加えて、職員の技術力向上に努め、体制を作っていく。地域の子育て支援の先輩方である「子育てオーエンジャー☆みなみ」の方々との関係性も大事にしていきたい。また、子どもたち自身の力を引き出せるような内容にしていく。

小学生向けの移動児童館については、今後も可能な限り連携、協力をしていきたい。庄瀬地域ではコミュニティ協議会、新飯田地域ではボランティアサークルである「ふおうはひと」との関わりができたかと考えている。また、白根地区公民館の方や、エリアは違うが「きたもんクラブ」の方々にもおまつりで毎年ご協力いただいている。今後も良好な関係性を大切に、継続していきたい。

中高生向けについては、来年度もこれまでの内容を見直し、改善、継続しながら、移動児童館だけでなく、行事やボランティアなどで積極的に連携を図り、内容を充実させていきたい。今年度は学校行事である合唱祭、文化祭への参加や、児童館行事のクッキングなどを実施したが、今後は、卓球大会、ボランティア活動、学習支援、憩いの場などの企画や環境整備等を考えている。

来年度も、地域に根差した活動とネットワーク作り、職員のより良いチームワーク作りの取り組みをしていきたい。